

校長室だより
NO. 3
平成31年4月15日

すべては光る

梅園小学校長
たか すりょうへい
高 須 亮 平

平成31年度の梅園小学校の教育目標 ～主体性と自己肯定感を育てる

いよいよ本日より1年生の給食が始まり、平成31年度の本格的なスタートとなります。他の学年では、既に平常の授業が進められています。子どもたちは、新しい学年の学習や生活を楽しみにがんばろうとする姿が見られ、うれしくなってきます。特に、6年生が1年生のお世話をするために、毎朝、教室で話をしたりレクをしたりしています。また、通学団での登校も責任をもって下級生をリードする姿を見せています。そんな姿を認めながら支えていきたいものと思っています。

さて、平成31年度の教育目標の重点について、詳細を裏面に記させていただきました。本校の校訓が「めあてを高くできるまでやれ」ですので、教育の目標とその実践は校訓の内容にかかわるように考えています。そのために、どのような教育の視点が求められるかについて述べます。

まず、「めあてを高くできるまでやる」ことは、あくまで子どもが自ら考え、活動できるようにするということです。先生からやらされてやるのではなく、子ども自らが価値判断をして意思決定することを大切にしたいと考えます。つまり、子どもの「主体性」を育てることになります。子どもが、あることに対して自分にとって大切であり価値があると思えば、自分でやってみようと思い、それを目標にして努力するのです。その目標は、初めは小さなものでも、活動の積み重ねにより大きな力を発揮することができます。もちろん、子どもを勝手気ままにして放置するのではなく、学校は教えるべきことは教え、その上で、子ども自らが考え活動できるようにしていきます。

次に、校訓の意味について考えますと、「できるまでやれ」は粘り強くあきらめない気持ちを育てることと考えられます。これは、子どもの具体的な姿として徐々に見られるようになってきました。例えば、学期ごとのやれ検に向かう態度であったり、部活動の練習や試合でのがんばりであったりです。その要因となっているのは何かと考えますと、そこには「やればできる」自信が大きく影響していました。ちょっとしたことでよいのです。「自分はできるんだ」という感覚、つまりは「自己肯定感」を持つということ。そして、それを他から認められたり、ほめられたり、また価値付けられたりすることなどと相まって、その気持ちは増大されていきます。そうすると、「自分には価値があるんだ、愛されているんだ、もう少しがんばってみよう」というように、自分の存在意義を前向きに受け止められます。そのことで、できるまでやろうとする気力も湧いてくることとなります。

平成31年度の本校の教育は、子どもの「主体性」を育て、「自己肯定感」を持つようにすることを目指していきます。ご家庭でもどうぞご支援ください。



朝の登校風景

平成31年度の梅園小学校の教育

1 本校の教育目標

明治4年(1871年)の「市学校」創設に始まる本校は、本年度で148年目を迎える歴史と輝かしい伝統を誇る学校です。これまで在職した児童・教職員が連綿と築いてきた「梅園の教育」を基盤に時代を見つめ次代を見通し、校訓「めあてを高くできるまでやれ」の具現のもと、「自ら考え進んで学び続ける子ども」「豊かな心を持ち思いやりのある子ども」「心身ともにたくましい子ども」を目指します。



避難訓練の風景

2 経営方針

- (1) 子どもが、自らの目標に向けて、自信をもち粘り強く、主体的に活動する教育の推進に努めます。
- (2) 子どもがかわり合うことで他から学び、自己肯定感を持てる人間性豊かな教育に努めます。
- (3) 学校、家庭、地域の連携を密にし、周りから広く意見を聞き、学校教育への反映に努めます。

3 本年度の重点目標

子どもが、自らの目標を持ち、「やればできる」自信と「できるまでやる」粘り強さで努力できる梅園の子どもを育てます。

(1) 知 自ら考え 進んで学び続ける子どもの育成

- ① 自ら考え、主体的に生き生きと学び合う授業を展開し、子どもが自ら価値判断し、意思決定をする活動ができるようにします。
- ② 個の特性に応じ、個を大切にしたい指導に努め、子どもが自らの目標に向け、見通しをもって活動したり、その活動を振り返ったりすることができるようにします。
- ③ 各教科・領域での求める子どもの姿を明確にし、学校・学区をよりよく創り上げる活動などを通して、基礎・基本的な知識・技能の習得とその活用を通じた思考力・判断力・表現力の育成に努めます。

(2) 徳 豊かな心を持ち 思いやりのある子の育成

- ① 生命を大切にする心や他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識などを、道徳の時間の授業や各教科の授業等を通して育てます。
- ② 友達などの他者への思いやりの心を広げる指導により、一人一人が認められる場をつくり、自己肯定感の育成に努めます。
- ③ 学年間での交流活動を重視して、上・下級生を大切にする心を育てます。特に、1年と6年、2年と5年、3年と4年とのペアをつくるなどの異学年交流活動を行います。

(3) 体 心身ともに たくましい子の育成

- ① 体育科の授業や体育的行事等の目的的な連携と活動により、自らの目標を設定し、それに向けた活動の一層の充実を努めます。
- ② 部活動の質的な活性化を図り、チームや個人の目標実現に向けた努力を傾けることができるようにします。
- ③ 保健指導の充実を図り、健康的で安全・安心な生活習慣を自ら身に付けることができるようにします。